

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和4年10月14日（金）10時00分～11時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

正岡企画調査官、松田室長補佐、佐藤室長補佐、新井安全審査官、横山係長、高木係長、塩唐松係長

澁谷企画調査官（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

黒川原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当13名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 循環注水冷却スケジュールについて
 - 使用済燃料プール対策について
 - 燃料デブリ取り出し準備
 - α 核種除去設備の検討状況について
 - 1号機原子炉建屋大型カバー設置工事に伴うオペフロダストモニタの一部停止について
 - 多核種除去設備(ALPS)高性能容器(HIC)排気フィルタの改良及び設置について
 - 1号機PCV水位低下に向けたS/C内包水サンプリング作業の実施について
 - 福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について
- 原子力規制庁は、上記説明について確認するとともに、以下のとおりコメントした。
 - α 核種除去設備の検討状況について
 - ✓ 今後設置する予定としている α 核種除去設備については、現行の水処理設備よりフィルタの孔径が小さくなり、設備に掛かる水圧も高くなると考えられるため、フィルタのジョイント部など漏えいがしやすい箇所への対策について今後説明すること。
 - ✓ 滞留水中の α 核種除去については、中期的リスクの低減目標マップに示されている原子炉建屋内滞留水の半減・処理に向けて重要な事項であるため、廃炉作業のリスク低減の観点からも出来るだけ早期の除去実現を目指すこと。
 - ✓ α 核種除去の運用が始まった場合、 α 核種が高濃度となる放射性廃棄物の保管管理が課題となるため、それらに対しても検討を行うこと。
 - 1号機PCV水位低下に向けたS/C内包水サンプリング作業の実施について
 - ✓ CUW配管にサンプリング孔を開ける作業の際には、2021年12月に3号機RHR配管で滞留ガスが確認されている事を踏まえ、引火対策など作業内容

には十分注意を払い行うこと。

- ✓ もし作業中滞留ガスが確認された場合は、速やかにその旨を規制庁へ報告すること。

- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. その他

資料：

- 循環注水冷却スケジュール（2022年10月14日現在）
- 使用済燃料プール対策について（2022年10月14日現在）
- 燃料デブリ取り出し準備（2022年10月14日現在）
- α 核種除去設備の検討状況について
- 1号機原子炉建屋大型カバー設置工事に伴うオペフロダストモニタの一部停止について
- 多核種除去設備(ALPS)高性能容器(HIC)排気フィルタの改良及び設置について
- 1号機PCV水位低下に向けたS/C内包水サンプリング作業の実施について
- 福島第一原子力発電所第1号機、第2号機及び第3号機の原子炉内温度計並びに原子炉格納容器内温度計の信頼性評価について（2022年10月提出）

以上